

## (A) 鎖骨骨折

※柔理テキスト P183~190

### [特徴]

- ・発生頻度は高く、全骨折中の 10~15%
- ・多くは**介達外力**で、直達外力は少ない
- ・小児の場合、不全骨折（若木骨折）の割合が高い
- ・少年期までの骨折では、修復力が高いので機能的にも外見上の容姿も漸次改善され予後良好
- ・成人、高齢者の骨折では、転位高度**第 3 骨片**を生じる場合がある。**整復位を保持する固定が困難**

### [原因（発生機序）]

#### ① 介達外力

- ・肩部を衝いて転倒したときと、肩関節外転位・肘関節伸展位で手掌を衝いた時に発生することが多い
- ・力学的に弱い**中外 1/3 境界部**に発生

#### ② 直達外力

- ・直達外力での発生はまれ
- ・**外 1/3 部**に発生が多い、肩鎖関節脱臼との鑑別が必要

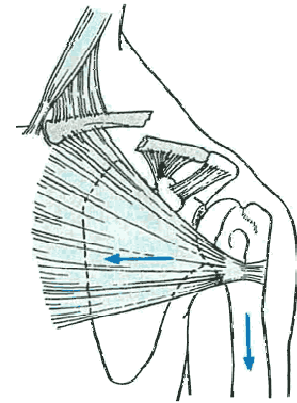
### [転位]

#### ① 完全骨折

- ・近位骨片・・・**胸鎖乳突筋**により、**後上方**に転位
- ・遠位骨片・・・**大、小胸筋**により短縮転位、上肢の**重量**により**下垂**

#### ② 不全骨折

- ・**上方凸の変形**を示す不全骨折が多い



### [症状]

- ・頭部をやや**患側**に傾けている（疼痛緩和のため）
- ・患側の肩は下垂
- ・肩幅は**減少**
- ・**異常可動性・軋轢音・腫脹・限局性圧痛**が著明
- ・上肢運動制限
- ・すり足歩行

### [整復法]

- ・整復前確認
  - ①腕神経叢損傷 ②鎖骨下動脈損傷 ③胸郭損傷
- ・幼児骨折の整復（若木骨折）・・・上方からの軽い圧迫操作を行い 8 字帯固定 2~3 週間
- ・成人骨折の整復
  - ① 臥位整復法
  - ② 坐位整復法

### [治療（固定法・整復法）]

- ・鎖骨骨折では肩甲骨の固定が困難
- ・固定期間：幼児の若木骨折・・・2~3 週間  
成人・・・4~6 週間
- ・固定肢位は「胸を張った姿勢」である

### 固定法

- ・8 字帯固定
- ・T 字状木製板固定
- ・セイヤー絆創膏固定・・・転位の少ないものに行う
- ・バンド固定
- ・デゾー包帯固定
- ・ギブス固定
- ・厚紙副子固定
- ・**リング固定**